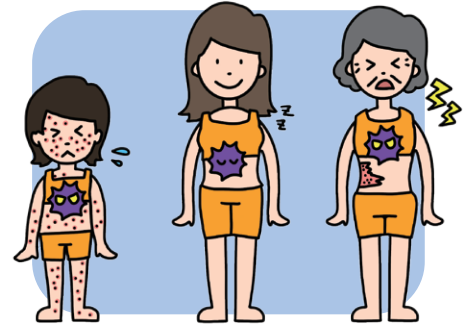




121. 帯状疱疹 ～早期受診と予防のすすめ～

帯状疱疹は、体の片側に沿って痛みを伴う赤い発疹や水ぶくれが現れる病気です。原因となる「水痘・帯状疱疹ウイルス」は、子どもの頃にかかった水ぼうそうの際に体内へ入り込み、神経の集まりである神経節に長い間潜伏しています。健康なときは免疫力がウイルスを抑えています。加齢やストレス、疲労、睡眠不足、病気や手術などで体力が低下すると、ウイルスが再び活動を始め、神経に沿って炎症を起こします。その結果、皮膚の発疹と神経痛が生じ、帯状疱疹として症状が現れます。



発疹は、小さな赤い斑点から始まり、水ぶくれになり、さらに膿を含む発疹に変化したあと、最後にかさぶたになります。特徴的なのは、体の左右どちらか一方に帯状に現れる点です。これはウイルスが神経の通り道に沿って広がるため、痛みも同じ側に集中します。

帯状疱疹の治療では、抗ウイルス薬の早期開始が非常に重要です。発疹が出てからできるだけ早い段階で薬を使うほど、ウイルスの増殖が抑えられ、回復が早まります。

主な抗ウイルス薬

- ・ **バルトレックス錠**：体内でアシクロビルに変わり、ウイルスの増殖を抑えます。
- ・ **アメナリーフ錠**：1日1回で効果が持続し、腎臓への負担が比較的少ないです。
- ・ **アシクロビル点滴静注液**：重症の場合や薬が飲めない方に使用します。

通常7日間の治療が基本ですが、症状によって期間が延びることもあります。



痛みの段階

帯状疱疹の痛みは大きく3段階に分けられます。

①前駆痛



発疹が出る前から「ピリピリ」「チクチク」とした違和感が現れます。この段階で受診できれば、早期治療が可能で症状の軽減につながります。

②急性期の痛み



発疹とともに「ズキズキ」と強い痛みが出ます。皮膚が触れるだけでも鋭い痛みを感じることがあります。

③帯状疱疹後神経痛

発疹が治ったあとも3か月以上続く痛みです。電気が走るような痛みや灼熱感が続き、高齢の方ほど起こりやすく、治療が長期間に及ぶこともあります。

痛みに対する主な内服薬について

帯状疱疹による痛みは、炎症だけでなく神経そのものが刺激されることで生じるため、痛みの種類や強さに合わせて複数の薬を組み合わせる使用することがあります。

分類	商品名（成分名）	効能・効果
非ピリン系解熱鎮痛薬	カロナール（アセトアミノフェン）	軽度～中等度の痛みにも用いられます。解熱作用もあります。
非ステロイド性抗炎症薬	ロキソニン（ロキソプロフェン） セレコックス（セレコキシブ）	炎症を抑え、痛みを軽減するお薬です。
オピオイド鎮痛薬	トラムセット（トアラセット）など	通常の痛み止めだけでは痛みが十分に抑えられないときに使用します。 眠気、便秘、吐き気などの副作用が出ることがあります。
神経障害性疼痛緩和薬	リリカ（プレガバリン）、 タリージェ など	神経が過敏になっている状態を落ち着かせることで痛みを和らげるお薬です。ふらつきや眠気が出ることがあるため、注意が必要です。
抗うつ薬	サインバルタ（デュロキセチン）、トリプタノール（アミトリプチリン）など	神経の痛みの伝わり方を調整し痛みを和らげます。気持ちを落ち着かせる効果もあり、慢性的な痛みで使用されます。
鎮痛補助薬	ノイロトロピン	神経の過敏な状態を穏やかにし、痛みを緩和するお薬です。他の鎮痛薬と併用されることが多いです。

带状疱疹の痛み、とくに神経痛は、お薬の効果が現れるまでに数日から数週間かかることがあります。自己判断で中止してしまうと痛みの長期化につながるため注意が必要です。

合併症について

带状疱疹は、発症する場所によっては合併症が起きることがあります。特に顔面に出た場合は注意が必要です。

☒ 目の周囲に発疹が出た場合：角膜炎や視力低下を引き起こすことがあります。

☒ 耳のまわりに出た場合：めまい・耳鳴り・顔面神経麻痺を生じることがあります。

このような症状がある場合は早めの受診が特に大切です。

带状疱疹は予防できます ― ワクチン接種のすすめ ―

带状疱疹は、ワクチン接種で発症や重症化を予防できます。完全に発症を防ぐことはできませんが、発症しても軽症で済むケースが多く報告されています。

●生ワクチン（乾燥弱毒生水痘ワクチン）

皮下に1回接種します。免疫力が低下している方は接種できません。

●不活化ワクチン（乾燥組換え带状疱疹ワクチン シングリックス筋注用）

2か月以上の間隔をあけて2回、筋肉内に接種します。免疫が低下している方は、医師の判断により1か月間隔に短縮できる場合もあります。

ワクチン接種の対象は原則50歳以上の方です。带状疱疹を経験された方でも再発を防ぐ効果が期待できます。接種を希望される場合は、かかりつけ医に相談し、ご自身に合った方法を選びましょう。自治体によっては費用を助成している場合があります。詳細はお住まいの自治体にお問い合わせください。

最後に

带状疱疹は身近な病気ですが、早めの受診と適切な治療で重症化や後遺症を防ぐことができます。日頃から休養、睡眠、バランスのよい食生活を意識し、免疫力を保つことが大切です。